

海外危機管理・今年の初夢

丸紅株式会社
人事部 海外危機管理担当

小島善二
Zenji Kojima

オフィスで情報分析



今年こそ平和な年にと祈ったが……

月日の経つのは早い。この原稿が掲載される頃には世の中は新緑の候となっていることだろう。話は少し前の2017年元旦にさかのぼる。

2016年は、6月のトルコ・イスタンブール空港銃撃・自爆テロ事件、7月のバングラデシュ・ダッカ市内における銃撃・人質テロ事件等々、凄惨な事件が数多く起こった年であった。今年こそは平和な年であらんことを、と祈って明けた17年であったが、初夢も覚めやらぬ日本時間の1月1日未明、トルコ・イスタンブールのナイトクラブで銃撃事件が発生したと多くの人が亡くなるという惨劇がまたもや起こった。こうした事件は今日が最後であってほしいと願いつつ、安否確認の連絡に取りかかった元旦であった。

危機事案の多様化で対処難しく

私自身は16年4月に中東のカタールから5年の駐在を終えて帰国、以来海外危機管理を担当している。海外危機管理担当となったのは「アラブの春」以降の中東で生き抜いた危機管理能力を買われたゆえかもしれない。が、実際のカタールは5年間ウソのように平和そのもので、一発の銃声も爆音もついに聞かずじまい。

通勤(痛勤)等の生活のリハビリに加えて、まずは海外危機管理のイロハのイから勉強する毎日となった。

勉強といっても海外危機管理は究極の実学。勉強の仕方も含めて手探り状態だった。日外協や外務省など各種団体主催のセミナー・講義案内を見つければ、片っ端から申し込んで受講という日々。一方で、座学の勉強と並行して本当に身になったのは人からの教えであった。海外安全官民協力会議や日外協主催のセミナーの場等でお会いする関係省庁や民間会社の方々には皆海外危機管理の先輩・大先輩であり、お話がどれほどありがたかったことか。メモを取り、何度も読み返したものだ。

広く言われていることながら、昨今のテロ事件などの危機事案は年を追うごとに多様化、発生国・地域も特定国・地域から世界中へと広がっている。それにつれて対処も難しくなっていると感じている。

初夢、日本の技術力に期待

さて初夢だが、5年ぶりに日本に定着して迎えた正月に見た夢は、日本の優れた先進的な技術への期待であった。様々な難しい危機・リスクに対して日本の技術で解決していく道はないのかと。夢なのでかなり漠然・混沌とした